



INTEGRATED AMPLIFIER

No. 3 8 3 L

取扱説明書

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社

1. はじめに

この度は、マーク・レビンソン No. 383 L インテグレートッド・アンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品は高忠実度伝送を可能にするバランス・オペレーションと、高精度な音量調整が可能なボリュームコントローラーなど、優れた音質と快適な操作性とを両立したマークレビンソン・プリアンプと、抜群のスピーカードライブ能力を誇る同社のパワーアンプとを一体化したプリメインアンプです。使いやすいシンプルなシステム構成で高音質な音楽をお楽しみいただけます。本製品の特長を活かし、最高の性能を発揮させるために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後まで読み、正しい操作で末長くご愛用ください。

2. 開梱

製品を梱包から取り出してください。本体をチェックして、損傷や不具合があった場合には直ちにお買い求めの販売店にご連絡ください。

梱包の中には No. 383 L インテグレートッド・アンプ本体の他、以下のものが収められていますので取り出してください。

- | | |
|--------------------------|-----|
| ● AC電源ケーブル(3P-2P変換ACプラグ) | × 1 |
| ● リモートコントローラー | × 1 |
| ● リモコン用バッテリー (単四乾電池) | × 2 |

オリジナル・カートンボックスは緩衝材等を含め、開梱後もそのままお手元に保存くださるようにお薦めします。修理等のため製品を輸送されるような場合、オリジナル・カートンボックス以外のもので行った不完全な梱包により、損傷が生じても責任を負いかねますのでご注意ください。

3. 保証について

保証は製品に添付された保証書の規定に基づいて行われますので、保証書をよくご覧ください。又、製品の仕様、外観は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください。

尚、バージョンアップなどに伴うアフターサービスは、保証期間の有無にかかわらず有償となります。また、その際の送料はお客様負担となりますので、ご了承ください。

4. セッティング

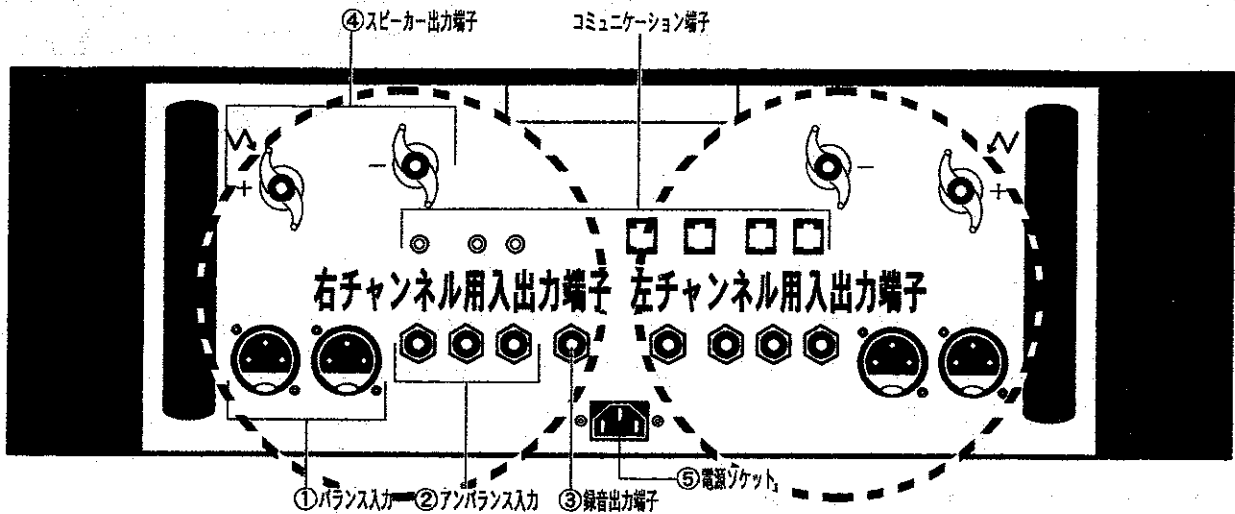
設置に際しては、ヒーターやストーブなどの近く、湿気やホコリの多い場所、直射日光の当たる場所などを避けて、しっかりとした台の上に設置してください。

No. 383 L はできるだけプログラムソース機器の近くに置き、入力用接続ケーブルを短くして使用してください。棚の上やキャビネットの中に設置することもできますが、空気の循環によって熱の拡散が行えるよう、周囲に十分な空間を設け、上部には約 8 cm 以上の隙間を設けてください。

5. 接続

No. 383 L に電源および信号ケーブルの接続を行なう際は、関連機器の電源をすべて切ってから行ってください(電源を切る際には、アンプ→ソース機器と、音の出口から順に切るようにしてください)。

No. 383 L は 100V (50/60Hz) の AC 電源用に内部設定されています。本体底面のラベルの表示が、使用地域の AC 電源に合っているか確認してください。No. 383 L の AC 動作電圧を変更したい場合には、弊社サービスセンターへご相談ください。



1. オーディオ入出力の接続

No. 383Lのオーディオ用端子は、本体フロントパネル側から見て右が右チャンネル、左が左チャンネルに完全に分離された対称型レイアウトになっています。左チャンネル用入力を“left inputs”の表示のある側に、右チャンネル用入力を“right inputs”の表示のある側にそれぞれ接続してください。

※接続ケーブルには、高品質のオーディオ専用ケーブルをご使用ください。No. 383Lの性能を十分に発揮させるために、伝送特性に優れた別売のオーディオ用ケーブル“CZ GEL-1”(XLRバランスタイプ)または“CZ GEL-2”(RCAアンバランスタイプ)の使用をお勧めします。

① バランス入力 (inputs 1~2)

バランス型オーディオ出力をもつソース機器から、No. 383Lにオーディオ信号を入力する時は、入力1~2のXLRコネクターによるバランスインプットを使用します。



XLRコネクターのピン配列

| | |
|---------|-------------|
| 1番ピン | アース (シールド) |
| 2番ピン | ホット (プラス) |
| 3番ピン | コールド (マイナス) |
| コネクターラグ | シャーシ・アース |

② アンバランス入力 (inputs 3~5)

アンバランス型オーディオ出力をもつソース機器から、No. 383Lにオーディオ信号を入力する時は、入力3~5のRCAコネクターによるアンバランスインプットを使用します。

No. 383Lでは、増幅率(ゲイン)、感度(オフセット)を各入力毎に設定することができます。詳しくは8. セットアップの入力設定の項をご覧ください。

③ 録音出力端子 (record out)

カセットデッキやMDレコーダーなど、録音機能をもつ機器にNo. 383Lから録音用アナログ・オーディオ信号を供給するときは、録音出力端子を使用します。録音出力をどの機器に使用するかは、入力セットアップ時に選択します。詳しくは8. セットアップの項をご覧ください。録音出力端子には、ソースノブにより選択された入力と同じ信号が出力されます。

注意: No. 383Lは出荷時に、常に録音出力端子から録音用オーディオ信号が取り出せるよう初期設定されています。このため、録音機器が録音モードの時に録音機器自身が接続された入力を選ぶと、信号がNo. 383Lと録音機器との間で行き来し、発信を起こす危険があります。これを避けるために、録音機器を接続する入力は、8. セットアップの項目に従って録音出力を“NONE”に設定にしてください。

④ スピーカー出力端子

スピーカーケーブルを用いてスピーカーシステムを接続します。⊕(赤)・⊖(黒)を間違えないように注意して接続して下さい。本機の出力特性を十分に発揮させるために、スピーカーケーブルは出来るだけ短くなるよう配線を工夫してください。

注意：スピーカーケーブルを接続する際は、出力端子をショートさせないように十分にご注意下さい。
 安全のため、スピーカーケーブル端末にはY型（またはU型）圧着端子を取り付けた上でご使用になることをお勧めします。
 トラブルを避けるため、本機出力端子にシステム・セレクターなどの機器を接続しないで下さい。

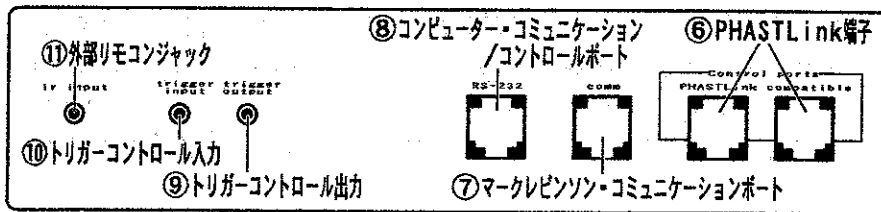
2. 電源の接続

⑤ AC電源入力(～ ac mains)

入出力端子の接続が終了しましたら、フロントパネルのメインパワースイッチ(power)がオフになっていることを確認した上で、付属のACケーブルのソケットをNo. 383Lコントローラー背面に、反対側のプラグを部屋の壁面コンセントに接続してください。

3. コミュニケーション・ケーブルの接続

No. 383Lとマークレピソンのオーディオ機器または他のAV機器を組み合わせて使用する場合、コミュニケーション・ケーブルの接続によりこれらを連動させた様々なコントロールが可能になります。コミュニケーション・ケーブルをご入用の際は、ご購入店または弊社サービスセンターへご相談下さい。



⑥ PHASTLink™コントロールポート(control ports/PHASTLink™ compatible)

将来、家電製品の総合コントロールを可能にするホームオートメーション用規格“PHASTLink™”に対応するために設けられたコントロール端子ですが、現在は機能しません。何も接続しないでください。

⑦ マークレピソン・コミュニケーションポート(comm)

マークレピソンのデジタル機器と接続することでさまざまな機能を発揮します。

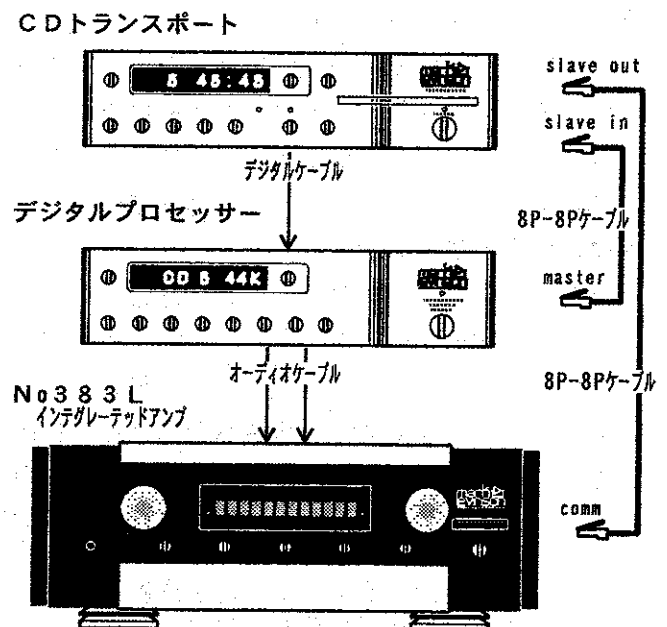
接続には8P-8P(RJ-45)コミュニケーション・ケーブルを用いて、No. 383Lのコミュニケーションポート(comm)とCDプレーヤーのマスター/スレーブ・アウト(master/slave out)またはデジタルプロセッサのマスター(master)ポートとを接続します。

マークレピソンのCDトランスポートとプロセッサを使用する場合は、まずプロセッサのマスター(master)ポートとトランスポートのスレーブ・イン(slave in)ポートを接続し、さらにトランスポートのスレーブ・アウト(slave out)ポートからNo. 383Lのコミュニケーション(comm)ポートに接続します。

No. 383Lでは、以下のコミュニケーション・リンクが可能です。

- ◆スタンバイ・リンク : 接続された機器の電源を同時にスタンバイから動作モードにします。
- ◆プレイ・リンク : トランスポートのプレイボタンを押すと、No. 383Lは自動的にこのトランスポートが接続されているプロセッサの入力番号を選択します(ただし、入力名にNo. 30/300シリーズの品番をあらかじめ表示させておくことが必要です)。

リンクケーブル接続図(例)



- ◆ディスプレイ・リンク : 接続された他の機器のディスプレイの輝度を同時に調整します。
- ◆ボリューム・リンク : マークレビンソンのCDトランスポートに付属のリモートコントローラーにて、アンプのボリューム操作が行えます。
- ◆セレクト・リンク : マークレビンソンのCDトランスポートに付属のリモートコントローラーにて、プロセッサーおよびアンプの入力セレクトが行えます。リモコンの“select”ボタンを押し続けることで、プロセッサーの入力セレクトとアンプの入力セレクトとを1つのボタンで使い分けられます。
- ◆HDCDリンク : 高音質のHDCD(高品位CD)ソフトの再生時の音量補正をアンプが自動的にを行います。

⑧RS-232コンピュータ・コミュニケーション・ポート

No. 383Lをコンピューターに接続し、最新のオーディオフォーマットに対応させるためのオペレーションソフトをダウンロードするポートです。AMX™やCrestron™などコンピューターを用いたコントロールシステムの接続にも使用できますが、その他の用途には使用しないでください。

⑨トリガーコントロール出力(trigger output)端子

市販のオーディオ/AV機器に広く用いられているDCトリガー式のコントロール端子です。3.5φミニ・プラグ付きケーブルを接続することにより、本機と同時にパワーアンプの電源をスタンバイ/オンすることができます。

本機のトリガー出力は、5Vのパルス出力と12VのDCレベル出力のいずれかを選択し、出力させることができます。詳しくは 8. セットアップの変更 の項をご覧ください。

⑩トリガーコントロール入力(trigger input)端子

3.5φミニ・プラグ付きケーブルを接続することにより、AV機器の電源と同時に本機をスタンバイ/オンすることができます。

本機はトリガー入力に3~12VのDCレベル信号が入力されると、スタンバイからオンになり、DCレベル信号が無くなるとスタンバイになります。

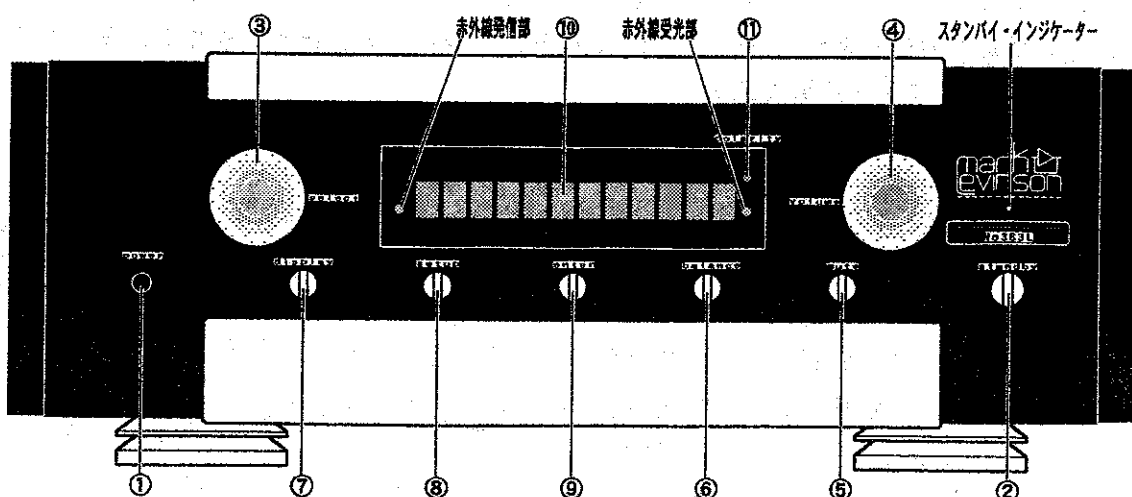
⑪外部リモコンジャック(ir input)

市販の赤外線受光機を接続することにより、受光機を設置した場所からNo. 383Lを赤外線リモートコントローラーを使って操作することができます。接続には3.5φミニ・プラグ付きケーブルを使用します。

6. 機能および操作

No. 383Lを操作する前に、使用するその他の機器が正しく接続されていることをご確認ください。

No. 383L フロントパネル



①メインパワースイッチ(power)

ボタンを押し込むとNo. 383Lに主電源が入り、内部設定モードの検索後、スタンバイ・インジケータが点滅しスタンバイの状態になります。ボタンを押して数秒間、ディスプレイやインジケータ表示が全く点灯しなくなりますが、これは本機が電源コンディションを確認しているため、異常ではありません。

メインパワースイッチがオンの時、本機の主要オーディオ回路は通電状態にあり、起動と共にすぐに最高の音質を発揮できるように設計されています。また、内部コンディションを常に安定させることにより本体寿命を最大限確保することができます。長期に渡り外出する場合を除きNo. 383Lのメインパワーは常時通電しておくことをお勧めします。

②スタンバイ(standby)ボタン

このボタンを押すことによりNo. 383Lはスタンバイ・モードから動作状態に入り、スタンバイ・インジケータとディスプレイが点灯して、フロントパネル・コントロールが操作可能となります。もう一度ボタンを押すとスタンバイ・モードに戻り、インジケータがゆっくりと点滅します。

スタンバイ・ボタンはNo. 383Lを使用しない場合にディスプレイを消し、フロントパネルのコントロール機能を停止させるために設けられています。

③ソース選択ノブ(select)

ソース選択ノブにより背面に接続された入力の選択を行います。ソースを選択するとディスプレイに数秒間ソース名と入力端子の番号が表示された後、ソース名とボリューム値の表示に戻ります。

入力設定にて不要な入力番号を【unused】に設定しておくこと、その入力番号はソース選択ノブでは選択されなくなり、無駄な操作を省くことができます。8. セットアップの変更 の手順にて入力の設定を行ってください。

④ボリュームノブ

音量の調整を行います。ノブを時計方向に廻すと、ディスプレイに表示された数字が大きくなり、音量が増加します。ノブを反時計方向に廻すとディスプレイの数字が小さくなり、音量が減衰します。音が絞り切られると、ディスプレイの表示は【OFF】になります。

本機のボリュームは、ディスプレイ表示の38.5まで徐々にステップが細かくなり、38.5以上では0.1(dB)の細かなステップでの音量調節が可能です。また、ボリュームノブの回転速度に比例して音量の変化量が変わるバリエーション機構を搭載していますので、ボリュームノブを速く操作すると音量が大きく変化し、ノブをゆっくりと操作すると音量が少しずつ変化します。

⑤ミュート(mute)

ボタンを押すとインジケータが赤く点滅し、音量が20dB減衰します。もう一度ボタンを押すと、インジケータが消えて元の音量に戻ります。また、ミュート状態でボリュームを操作すると、ミュートが解除されてインジケータが消え、ミュートがかけられたレベルから音量が変化します。

ミュートによる音量の減衰量を-10~-73.2dBまで変更することができます。詳しくは 8. セットアップの変更 の項目をご覧ください。

⑥バランス(balance)ボタン

ボタンを押すとボタンの上のインジケータが赤く点灯し、ボリュームノブが左右の音量バランスの調整機能に切り替わります。ノブを右に廻すことで左チャンネルの音量が0.1dBずつ減衰し、最後に右チャンネルの音だけになります。左に廻すと右チャンネルの音が0.1dBずつ減衰し、最後に左チャンネルの音だけになります。

レベルバランスの設定を左右にずらしている場合、本機がモニターモードに戻ってもバランスインジケータが点灯したままになり、レベルが補正されていることを明示します。

⑦ディスプレイ照度(display-intensity)切り替えボタン

ボタンを押すことによってディスプレイと各インジケータの明るさが4段階に変わります。ディスプレイ照度ボタンを一度押すと、ディスプレイは1段階暗くなります。更にボタンを押すことにより、

ディスプレイは順次暗くなり、最後にオフされます。この時、インジケータは最も暗い状態で点灯します。更にもう1度押しとディスプレイとインジケータは最も明るいレベルに戻ります。

⑧セットアップ (setup) ボタン

入力設定などを行うセットアップモードへの切り替えボタンです。ボタンを押すとLEDが点灯し、セットアップモードに入ります。もう一度ボタンを押すと通常動作モードに戻ります。

⑨エンター (enter) ボタン

セットアップモードにおいて、選択項目の決定ボタンとして働きます。

⑩ディスプレイ

ディスプレイには、以下の情報が表示されます。

◆ソース名

選択されている入力の名称が表示されます。登録済みの名称の他、アルファベットと数字、記号を組み合わせてオリジナルの名称を作成して表示させることができます。詳しくは、8. セットアップの変更の項目をご覧ください。

◆音量表示

再生中のボリューム目盛りが音量0を示す【OFF】から最高値【73.2】までのデシベル数値で表示されます。ソース選択時には、入力端子の番号表示に換わります。

◆入力番号

ソース選択時に数秒間、選択されたオーディオソースの入力端子の番号が表示されます。

⑪ポラリティ (polarity) インジケータ

リモコンのポラリティボタンを押すと点灯し、位相反転した信号が出力されていることを示します。

7. リモコンによる操作

付属のリモートコントローラーを使用すると、本体フロントパネルと同じ機能の操作に加え、追加機能を実行することができます。以下の要領で付属の電池を挿入してからご使用ください。

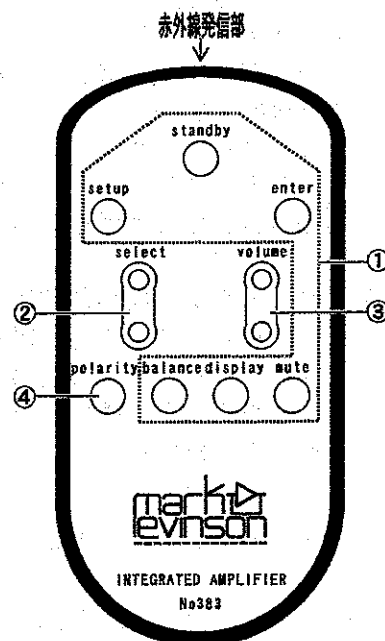
- ①リモートコントローラー底面のネジを小型の⊕ドライバーを使用して取り外し、底蓋を開けます。
- ②付属の単四型電池を極性に注意しながらリモートコントローラーに挿入します。
- ③①で取り外した底蓋とネジを元通りに締めます。

電池を挿入後、各操作キーを押して動作を確認してください。リモートコントローラーをご使用の際は、リモコンの発信部をNo. 383Lのディスプレイ右角の赤外線受光部に向けて、キーを操作してください。

①基本操作キー

付属のリモートコントローラーの各キーは、以下のフロントパネル各ボタンと同じ働きをします。

| リモコン・キー | フロントパネル | 用途 |
|---------|-------------------|--------------|
| standby | standby | 電源のオン/スタンバイ |
| setup | setup | セットアップモード |
| enter | enter | 選択項目の決定 |
| mute | mute | 音の減衰(ミュート) |
| display | display intensity | ディスプレイ輝度調整 |
| balance | balance | 左右のレベルバランス調整 |



②セレクト (select +/-) キー

キーを押すことで入力ソースの切り替えが行えます。

③ボリューム (volume +/-) キー

キーを押すことによって音量を調節することができます。“+”キーを押す毎に1ステップ音量が大きくなり、“-”キーを押す毎に1ステップ音量が小さくなります。また、キーを押し続けると、最初の1.5秒間はゆっくりと、その後は徐々に早く音量が変化し続けます。

④ポラリティー(位相)反転 (polarity) キー

このキーを押すことによって、No. 383Lの位相極性を反転させ、録音過程で起こった位相の違いやバランス接続時のホット/コールドのピン配列の違いなどによる位相の反転を補正できます。キーを操作すると位相が反転され、ポラリティー・インジケータが点灯します。再度キーを押すことで位相が元にもどり、インジケータが消えます。

8. セットアップの変更

No. 383Lには、さまざまなソース入力に適合するための特別なカスタムセットアップ機能が備わっています。製品出荷時にはあらかじめ標準的な使用に合わせた設定がされていますが、これらの設定をユーザーの希望に合わせて変更することが可能です。

1. 入力設定

No. 383Lでは、入力ソース名やゲイン(増幅率)などを各入力端子毎に設定することができます。

- ◆Name = □□□□□□□□ : 入力ソース名
入力ソースの名称を登録リストから選択、表示できます。
また、アルファベットと数字、記号を組み合わせ、最大7文字までのオリジナル名称を作成し表示させることもできます。(入力ソース名の設定参照)
- ◆Gain = +00dB : 入力ゲイン選択(0/+6/+12/+18dB)
出力レベルの異なる機器に対応するため、入力毎にアンプ部の増幅率を4段階から選べます。
- ◆Offset = ±00.0 : 入力オフセット(-20~+20dB)
ソース毎に異なる音量レベルをソース選択時にボリューム回路で補正します。0.1dBステップで調整可能です。
- ◆Rec. Out = #1 : 録音出力設定(#1/NONE)
テープデッキやCD-R、MDなどにオーディオ信号を出力する録音用出力の設定です。録音機能を持つ機器の入力には“NONE”を、その他の機器には“#1”を設定してください。

注意: No. 383Lは出荷時に、常に録音用端子からオーディオ信号が取り出せるよう初期設定されています。このため、録音機器が録音モードの時に録音機器自身が接続された入力を選ぶと、信号がNo. 383Lと録音機器との間で行き来し、発信を起こす危険があります。これを避けるために、録音機器を接続する場合には必ずその入力の録音出力を“NONE”に設定してください。

No. 383Lの出荷時には、インプット1~5の入力が以下に設定されています。

| 入力1~2(バランス入力) | 入力3~5(アンバランス入力) |
|-------------------------|------------------|
| ソース名 : Name = INPUT 1~2 | Name = INPUT 3~5 |
| 入力ゲイン : Gain = +6dB | Gain = +12dB |
| オフセット : Offset = 0.0 | Offset = 0.0 |
| 録音出力 : Rec. Out = #1 | Rec. Out = #1 |

これらの設定を変更するには、以下の操作にてセットアップメニューの変更を行ってください。

- ① 設定を行いたい入力番号を選び、フロントパネルの“setup”ボタンを数秒間押し続けてください。
→ setupボタンのインジケーターが点灯し、ディスプレイに【Name=□□□□□□□】と表示されます。
- ② 左側の“select”ノブを回すと、変更可能な項目が以下の順で切り替わります。
Name=□□□□□□□ : 入力ソース名
Gain= +00dB : 入力ゲイン選択(0/+6/+12/+18dB)
Offset=±00.0 : 入力オフセット(-20.0~+20.0dB)
Rec. Out=#1 : 録音出力設定(#1/NONE)
変更が必要な項目を選び、“enter”ボタンを押してください。
→ 変更項目の“=”表示が点滅します。
- ③ ボリュームノブを操作すると設定値が変わります。希望の値に変更し、“enter”ボタンを押します。
→ ディスプレーに【SAVING DATA】と表示され、設定が記憶されます。
- ④ “setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に入力名が表示されて通常動作に戻ります。
→ setupのインジケーターが消えます。

《入力ソース名の設定》

A. 登録済みソース名の選択

No. 383Lは各オーディオ入力について、各々の名称をサンプルの中から選び、ディスプレイに表示させることができます。ソース名として以下の名称が選択できます。

| ディスプレイ表示 | ソース名 |
|-----------|-------------------------------------|
| INPUT | 初期設定/オリジナルネームの入力用 |
| unused | 使用していない入力の設定用 ^{*1} |
| SSP | サラウンド・サウンド・プロセッサー・モード ^{*2} |
| DAT | デジタル・オーディオ・テープ |
| VCR | ビデオ・カセット・レコーダー (ビデオデッキ) |
| CASS | カセット・レコーダー |
| RtoR | リール・ツー・リール (オープンリール・デッキ) |
| MD | ミニ・ディスク |
| CD-R | CDレコーダブル(録音可能なCD) |
| SAT | サテライト (衛星放送) |
| LD | レーザー・ディスク |
| CD | コンパクト・ディスク |
| TUNER | チューナー |
| AUX | オグジュアリー (補助入力) |
| DAC | D/Aコンバーター |
| TAPE | テープデッキ |
| DVD | DVDプレーヤー |
| No 30 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 30 L |
| No 30.5 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 30.5 L |
| No 30.6 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 30.6 L |
| No 35 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 35 L |
| No 36 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 36 L |
| No 36 S | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 36 S L |
| No 36 0 | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 36 0 L |
| No 36 0 S | マークレビンソン デジタルプロセッサー No 36 0 S L |
| No 39 | マークレビンソン CDプレーヤー No 39 L |

※1: 使用しない入力端子を【unused】に設定することで不要な入力番号の選択を避け、リモコンやフロントパネルによるスピーディーなソース選択が可能になります。また、不要な入力端子を回路から切り離し、ノイズの混入を避けて、よりクリーンな音をお楽しみいただくことができます。

※2: SSPモードでは、プリアンプ部のゲインが0dBとなり、最大音量のままボリュームの操作が行えなくなります。ソースの演奏中に誤って設定しないようご注意ください。詳しくは9. SSPモードの活用^{の項}をご覧ください。

B. オリジナルソース名の作成

No. 383Lはアルファベット（大文字／小文字）と数字、記号を組み合わせ、最大7文字までのオリジナルネームを入力ソース名として作成して表示させることができます。ネーム作成の手順は……

- ①上記セットアップメニューの入力ソース名設定において、設定を行う入力の番号を【INPUT 〇】と表示させ、“enter”を押します。
→【■■■■■■■■■■】入力表示全体が点滅します。
- ②もう一度“enter”を押します。
→【■□□□□□□□】表示の1文字目が点滅します。
- ③ボリュームノブを回しアルファベットや数字、記号の中から希望する文字を選び、“enter”を押します。
→【□■□□□□□□】2文字目が点滅します。
- ④③の操作を繰り返し、文字を選択していきます。文字表示が不要な欄には空欄を選択してください。
- ⑤7文字目の選択の終了後、“enter”ボタンを押します。
→ディスプレイに【SAVING DATA】と表示され、設定が記憶されます。
- ⑥“setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に通常動作に戻ります。
→setupのインジケーターが消えます。

II. その他の設定

ミュートボタンにより減衰する音量やボリューム調整できる最大レベルを任意に設定できます。また、リモートトリガー出力の信号切り替えや学習リモコンへの赤外線信号出力などの機能をコントロールすることができます。

- (1) Set Inputs : 入力の設定
インプット1～5の入力設定を行います。詳しくは入力設定の項をご覧ください。
- (2) Teach IR : 学習リモコン用赤外線出力モード
No. 383Lの機能を学習機能付きリモコンに学習させるための赤外線信号を出力します。学習させたい機能をボリュームノブで選択し、“enter”ボタンを押してください。【<SENDING】と表示され、ディスプレイ左角の赤外線発信部から赤外線信号が出力されます。
本機の赤外線信号のキャリア周波数は、最も一般的な40kHzを採用しています。
- (3) Mute = -〇〇. 〇 : ミュートレベルの設定
ミュートボタンの操作により減衰する音量を0.1dBステップで-73.2dB(出力0)まで設定できます。
- (4) Max Vol. = 〇〇. 〇 : 最大ボリューム値の設定
ボリューム操作により得られる最大音量を規制します。小さなお子様のいたずらや誤操作による大音量を防ぎ、スピーカーの破損を未然に防止できます。
- (5) Trig. = 12v, L / 5v, P : トリガー出力の切り替え
トリガーアウト端子から出力されるコントロール信号を12Vの連続出力(12v, L)と5Vのパルス出力(5v, P)から選択できます。
- (6) Sw 〇. 〇〇 〇. 〇〇 : ソフトウェアバージョン表示
No. 383Lの製造ロット番号とプログラムされているソフトウェアのバージョンが表示されます。機器のアップデートや修理の際に必要な場合がありますので、記録しておくことをお勧めします（この表示はバージョンアップ時以外変更できません）。

これらの設定を変更するには、以下の操作にてセットアップメニューの変更を行ってください。

- ①フロントパネルの“setup”ボタンを押します。
→setupボタンのインジケーターが点灯しディスプレイに【No 383 Setup】と表示されます。
- ②“enter”ボタンを押してください。
→ディスプレイに【Set Inputs】と表示されます。
- ③左側の“select”ノブを回すと、設定項目が上記(1)～(6)の順で切り替わります。
変更が必要な項目を選び、“enter”ボタンを押します。
→変更項目の“=”表示が点滅します（Teach IRとソフトウェアバージョン表示を除く）。
- ④右側のボリュームノブを操作すると設定値が変わります。値を変更し、“enter”ボタンを押します。
→ディスプレイに【SAVING DATA】と表示されます。
- ⑤“setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に入力名が表示されて通常動作に戻ります。
→setupのインジケーターが消えます。

III. スリープターマ機能

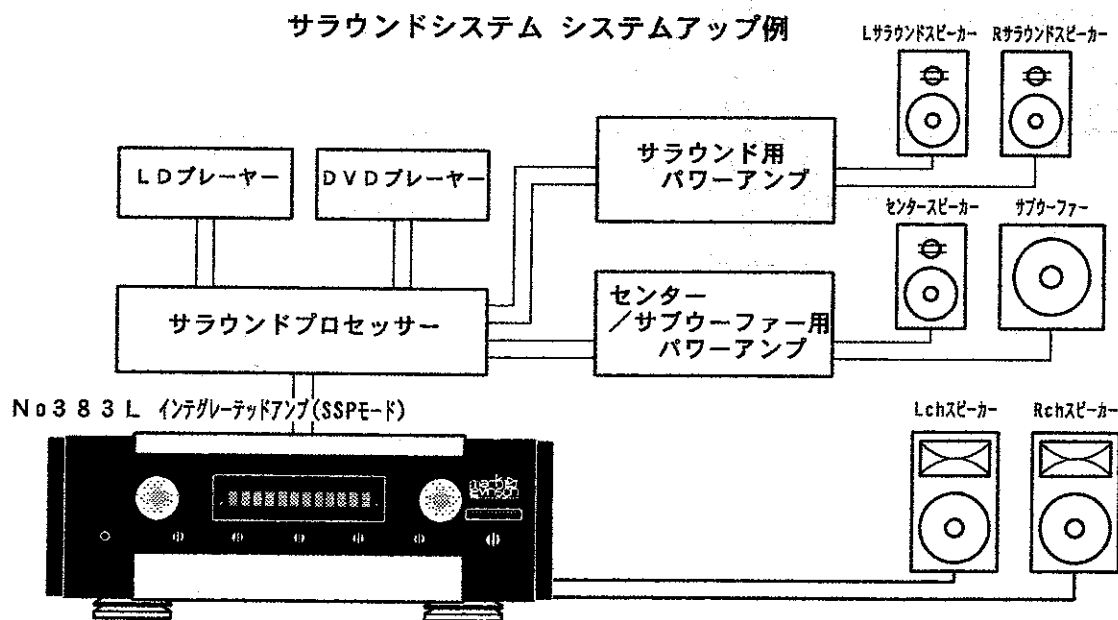
セットした時間の経過後に、アンプを自動的にスタンバイモードにすることができます。

- ① “standby” ボタンを数秒間押し続け、ディスプレイに【SLEEP-OFF】と表示させます。
- ② “standby” ボタンを押す度に30分づつ最大4時間まで、時間を調整できます。たとえば、【1hr 30min】は1時間30分後に電源がスタンバイになることを示します。希望の時間を設定してください。
- ③ そのまま約10秒間放置すると、自動的に通常モードに戻ります。

設定した時間が来ると本機はスタンバイモードになります。この時、マークレビンソンのNo. 30/300シリーズデジタル機器を使用し、コミュニケーション・リンクケーブルが接続されている場合には、リンクされたすべての機器がスタンバイになります。一度タイマースタンバイ機能が動作し、スタンバイモードになるとタイマーは自動的に解除されます。また、設定した時間が来る前にスタンバイボタンを操作するか、上記の操作でディスプレイの表示を【SLEEP-OFF】に変えるとタイマースタンバイ機能はキャンセルされます。

9. SSPモードの活用

本機は最高級の音楽と映像とを楽しむために、サラウンドプロセッサと組み合わせることのできる特殊なサラウンドプロセッサモードを持ちます。本機にサラウンドプロセッサを接続し、オーディオシステムとサラウンドシステムとを兼用する場合には、下記の図を参考に機器の接続を行い、8. セットアップの変更の章の《入力ソース名の設定》に従って接続した入力の名称に【SSP】を選択してください。



《SSPモードについて》

通常のインテグレートッドアンプでは、サラウンドプロセッサの出力を入力ソースとしてアンプに入力すると、アンプのボリュームを操作することにより慎重に調整されたデコーダのレベル調整をも狂わせ、センターとサラウンドのレベルに対する左右チャンネルの出力レベルが変わってしまいます。本機はこのような問題をサラウンド・サウンド・プロセッサ(SSP)モードを設けることで解決しています。本機の入力の名称に【SSP】が選択されると、ボリュームコントロールが無効となり、綿密に調整されたプロセッサの出力レベルを狂わせることがありません。SSPモードではディスプレイに【LINE】と表示され、ラインレベルが保持されていることを示します。この時、システムの音量はサラウンドプロセッサのマスターボリュームで調整してください。

注意：本機をSSPモードに設定すると、その入力では最大音量のままボリュームの操作が行えなくなります。ソースの演奏中に誤って設定しないようご注意ください。

また、SSPモードに設定された入力を他の入力表示に変更した直後は、ボリュームの値が最大レベル(73.2dB)に設定されています。設定変更を終了しボリュームレベルを絞るまで、この入力に接続された機器を演奏しないようご注意ください。

10. メインテナンス

お手入れの際は必ず柔らかい布を使用し、乾拭きするようにしてください。汚れがひどい時は、イソプロピル・アルコールを浸した柔らかな布で汚れを拭き取ってください。

11. 規格

| | |
|-----------------|--|
| パワーアンプ部出力 | : 100W(8 Ω)/200W(4 Ω) |
| 入力端子 | : XLRバランスX2 ϕ 7 : RCAアンバランスX3 ϕ 7 |
| 出力端子 | スピーカー出力: マドリガルオリジナル・バインディングポストX1 ϕ 7 レコード出力: RCAアンバランスX1 ϕ 7 |
| ゲイン | プリアンプ部: 0/6/12/18dB パワーアンプ部: 26.9dB |
| ボリュームコントロール・レンジ | : 73.2dB |
| ボリューム解像度 | : 85/38.5(-34.7dB)以上0.1dBステップ |
| 最大入力 | +18dBゲイン: 2V(バランス)/1V(アンバランス) +12dBゲイン: 4V(バランス)/2V(アンバランス) +6dBゲイン: 8V(バランス)/4V(アンバランス) 0dBゲイン: 16V(バランス)/8V(アンバランス) |
| 入力インピーダンス | : 100k Ω |
| 出力インピーダンス | : 0.05 Ω 以下 |
| 周波数レスポンス | : 20Hz~20kHz \pm 0.1dB |
| 歪(THD+N) | : 0.3%以下 |
| 消費電力 | スタンバイ時: 100W 無信号時: 200W 4 Ω 定格出力時: 1,200W |
| 寸法(幅×高さ×奥行き) | : 445×162×483mm |
| 重量 | : 29.5kg |

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社